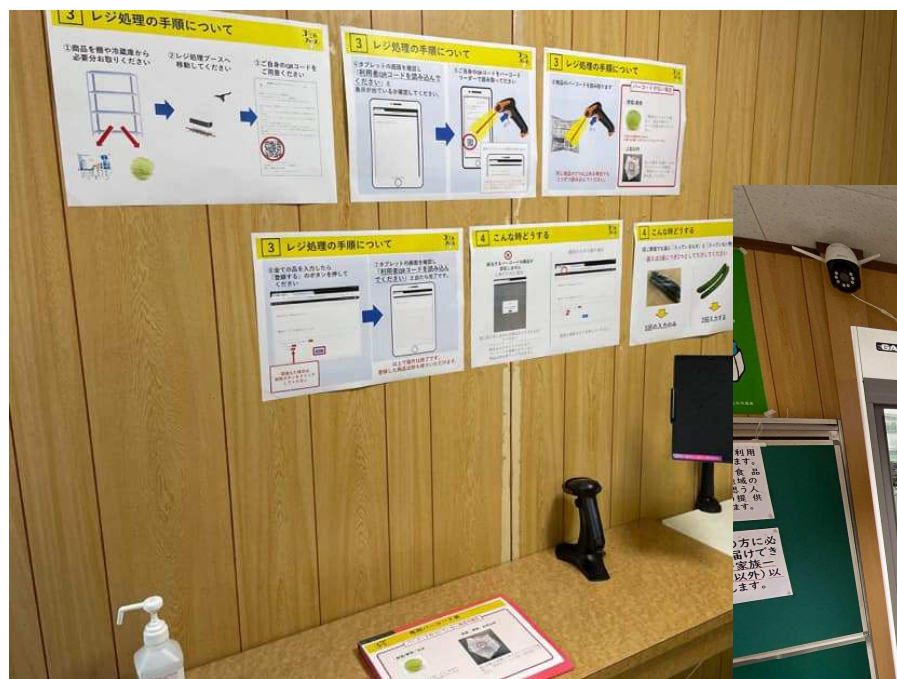




みんなの「公共冷蔵庫、誕生！
3 ページ「寝屋川コミュニティ フリッジ」



◆ 言いたい放題！アッキー28号 (53)

スマホで聞く、原発事故被害のお話

◆ 「寝屋川コミュニティ フリッジ」開設

◆ STEMz マンガ文庫 蔵書紹介

今日が一番若い！ リスタートを描いたマンガ

◆ イベント紹介

◆ うたかた話 22 今昔物語(11)

◆ 今月の五行歌

◆ なんちゃって農業女子(笑) 13

◆ 11年目の福島浜通り 原発事故被災地に行ってきました(3)

◆ わたしの闘病日記「身体中で一番新しい関節に感謝」(8)

◆ 編集局より／会計報告



「LIP編集局」

<https://love-dugong.net/lip/>

連絡先

メールアドレス: lip@love-dugong.net

TEL: 070-5653-6913 (18時以降)



2月始めの日曜日、友人に誘われ原発事故被害についてのオンラインお話し会(※)に参加した。午後2時自宅のリビングでスマホにもらった招待状のリンクにタッチ。Zoomのアプリが作動して、北海道にいる講師の地脇聖孝(ちわき・まさたか)さんと高槻にいる運営スタッフの姿が分割された画面に映った。

黒と白の牛が草を食む牧場の写真をバックに語る地脇さんは、元福島県西郷村村民。西郷村は事故を起こした福島第一原発から約80キロの距離にある。地脇さんは原発事故の前4年、事故後2年村に住んでいた。

地震当日激しい揺れに襲われたが、自宅は無事で、電気・ガスも数時間後に復旧。福島第一はメルトダウンが始まっていたと口走った原子力安全・保安院の幹部が更迭されたとニュースで知り、情報隠しが始まったと感じた地脇さんは、復旧したネットでキエルノブイリ原発事故について調べ、今も高濃度の放射能汚染が周辺地域で続いていると知る。「このまま福島に電源車が間に合わなければこの村も同じ運命になる」と12日夜一時避難を決意して、車に最小限の荷物を積んで東京へ。15日夜には「東京も危険」と聞いて、新幹線で大阪に避難した。先の見通しのつかぬまま4月中旬職場に復帰、福島に戻ってきた。休日週一のペースで、同じ地点で簡易線量計で放射線量の測定を続けた。簡易線量計は事故直後は高価で入手が難しかったが、3万円前後に価格が下がってきた7月頃、地脇さんはウクライナ製のものを入手した。初期設定では0.3μSv/hで警報音が鳴るように設定されていたが、それだと鳴り続けるので、設定値最大の1.2に変えた。そ

言いたい放題! アッキー28号 (53)

スマホで聞く、原発事故被害のお話

れでも当時は時々鳴っていた。

大々的に行われた除染だが、果たして役に立ったのか? ある小学校の通学路を環境団体が検証した結果では、あまり大きくは減っていない。地点によっては除染後の方が線量が微増しているところもあった。汚染がまだら状態の福島市に比べ、郡山市は市内全体に汚染がまんべんなく広がり、キエルノブイリの基準にあてはめると空間線量では多くの地域で「強制避難ゾーン」に該当していたということ。NHKのホームページには、事故後1年くらい福島第一原発の周囲の地域の放射線量が毎日更新されて掲載されていた。福島県以外にも、茨城県の北茨城市の線量が載っていた。北茨城では郡山や福島の2倍の空間線量が測定されたこともあったということ。

郡山市にある福島朝鮮初中級学校は2011年5月から2学期が終わるまで新潟朝鮮初中級学校に疎開していたということも聞いた。各種学校で、学校教育法に基づく学校ではなかったから文科省の方針に関わらず疎開できたのだろうということ。その記録が本になっていることも知った。

震災での死者数と関連死の数を見ると、震災直接死は宮城県が半分以上を占めているが関連死は福島県が突出して多い。その殆どは避難先での死亡や自死であり、これは原発事故の影響以外に考えられない。生業を失い、元には戻らないなどの理由で自死された人の無念さはどんなであったろう。無視されてきた健康被害、当時子どもであった人たちが甲狀腺がんの被害を訴える訴訟が始まったこと等。——以前聞いていた話がつながって、は

っきりしたかたちとなって見えてきた。

40分のお話が終わると、講師を交えての交流タイム。避難して各地で訴訟の原告になっている方たちの発言もあり、その言葉には胸に突き刺さってくるような重さがあった。

いちばん衝撃的だったのは、「そんなことでは国民を守れない」という地脇さんの言葉だった。「国は守ってくれない」ということはこれまで何度も耳にしてきた。でも、そう思ってからでは手遅れで、間に合わない。だから、「国が守ってくれないなんて、簡単に信じるな。いざという時は捨て置かれるのだと、肝に銘じておけ」と私は思ってきた。しかし、それは違っていたのだ。

「しっかりとしてくれないと困る。これでは私たちを守れないではないか」と、私たちは自分たちを守る役目を担う人たちに言わねばならないのだ。それは私たちの責任だ。

北京五輪が終わって、2月24日ロシアがウクライナへの軍事侵攻を始めた。被弾した建物、泣き崩れる人々。分厚いコートを着て手荷物一つで避難しようとする人たちの姿は、11年前の原発事故被災者の姿と重なる。

一体どうして? 世界のどこにも答えはない。見つからない答えを、探し続けている。

* 主催は、「つながろう Fukushima つながろう被災者の会 山下・山本」

(著者プロフィール) パート勤務の主婦。自閉症を持つ成人した息子がいます。

「放課後クラブ『チャレンジ・キッズ』」代表

<https://ameblo.jp/challengekids81573/>

みんなの“公共冷蔵庫”！！ 「寝屋川コミュニティフリッジ」開設

2010年代になってから「コミュニティフリッジ」（フリッジは「冷蔵庫」のこと）とよばれる取り組みが欧米各地にひろがっているそうです。フードロス、いわゆる食べずに捨てられる食品や材料をなくす運動は2030年をめざした国際的な取り組み「持続可能な開発目標 SDGs」にも合致した取り組みです。何もしなければ廃棄されてしまう商品を消費者のニーズとマッチングさせることで食品ロスの発生や、無駄を減らす仕組みです。

「コミュニティフリッジ」は欧米では公共の場に設置された大きな冷蔵庫に個人や飲食店が不要な食べ物を入れて、その食べ物は誰でも持って帰ることができるという取り組みです。地域の住民とお店が一緒になってフードロスを減らす取り組みですが、昨今の社会事情から、フードバンク（一方に余っている食べ物があり他方で食べ物に困っている人がいてそれをつなぐ活動）の一つの形としても、ニューヨークなどでは取り入れられるようになったそうです。日本でも、2020年の秋に岡山で日本版の「コミュニティフリッジ」が立ち上がりました。岡山の取り組みをきっかけに全国でも「コミュニティフリッジ」をたちあげようという動きがスタート。そのノウハウ移転の第1号として、2021年10月に「寝屋川コミュニティフリッジ」を開設しました。

コミュニティフリッジの仕組みは、「食品を提供していただく個人（プレゼンター）の方」も「食品をもちかえる方」も登録制になっています。登録制になっているからこそ、一番懸念される食品の管理が可能になっています。また、コミュニティフリッジはスマートキーとバーコードによる商品の出庫管理をしていますので、持ち帰る方については、スマホアプリとQRコードで顔を合わせず24時間持ち帰ることが可能になっています（スマホがなくても一部制限はありますが利用は可能です）。ご利用いただける方は、こどもさんのおられるご家庭などとしています（現在は、まだ一般には募集していません。相談支援からの生活困窮世帯を優先に登録していただいています）。

1月27日に業務用冷凍冷蔵庫が設置でき、冷蔵品や賞味期限が短いものも扱うことができるようになりました。今後はさまざまな形での食品ロスの取り組みを拡げていきたいと思っています。個人での食品などの寄贈以外に、企業からの廃棄食品の寄贈も募集しているほか、年に1度以上、定期的に「フードドライブ」を開催してくださる個人や団体・企業を募集しています。

また、コミュニティフリッジのもう一つの側面である生活困窮者、こどもの貧困支援では、現物を持ち込む時間がない、登録をするのが難しい、という方は「インターネットの欲しいものリスト」からのご支援食品などを購入するため、コミュニティフリッジそのものの運営をご支援いただくための寄付も募集しています。

今後は活動に直接かわっていただくボランティアや学生インターシップの募集も行いながら、活動を盛り上げていきたいと思っています。

（寝屋川コミュニティフリッジ）

※寝屋川コミュニティフリッジは、寝屋川で40年以上前から住民によるボランティア活動などを行っているNPO法人 寝屋川市民たすけあいの会が行っている取り組みです。

<http://neyagawatasukeai.org>



STEMz マンガ文庫 蔵書紹介

今日が一番若い！ リスタートを描いたマンガ

桜も咲き始め、春の訪れと共に、卒業や入学を迎える年度末ですね！年度末に気分一新できていた頃は遠い昔……。出会いと別れに沸き立ち、新しい世界に飛び込む若者たちを横目に、何年も同じ環境で変わり映えのない日々を送っている、でもなんか違うなと思っている方には是非読んでほしいマンガ『その女、ジルバ』を紹介します！

◆ その女、ジルバ ◆

著：有間しのぶ 既刊5巻 蔵書5巻



百貨店のアパレル店員として働いていた笛吹新は、結婚直前に恋人に逃げられた上、倉庫勤務に左遷され夢も希望もない毎日。迎えた40歳の誕生日も朝からロクなことがなく、お先真っ暗…。ところが“40歳未満お断り”，という不思議な求人募集につられて入った一軒の店との出会いが、新の人生を大きく変えることとなります。夢も、仕事も、結婚も、あきらめかけた彼女が、笑い、歌い、踊り、いつの日か忘れていた何かを取り戻していく…。昼と夜、

二足のワラジで働くことになった、見習いホステス・“アララ”。彼女のシングルライフに、どんな変化が訪れるのか！？アラフォー女性が飛び込んだ超高齢熟女バーの世界で繰り広げられる、笑いと涙の超絶エンターテインメント作品となっています。

私も40代になり、主人公アララの境遇を、とても他人ごとと思えず、アララに起こる一つ一つの出来事に心を痛めながらも夢中になって読みました。お涙ちょうだいの感動！逆境からの復活ストーリーではなく、ほんの少し勇気を出して飛び込んだ世界をきっかけに、前向きに人生をリスタートさせようと頑張るアララが、ただただ真面目に素直に働き、熟女たちやバーのお客さんに愛され、変わっていく様子が描かれています。

“何か”をしなければいけないと焦っているけど、その“何か”がわからない。そう思っている方には是非読んでほしい作品です！どんな逆境にもめげずに明るく生き抜いてきた熟女たちのパワーと、前向きな人生を歩み始めるアララの姿に、きっと勇気もらえるはずです。

福島・戦後・ブラジル移民……。熟女たちのエピソードを通して、新たな視点で語られる日本の歴史に驚きつつも、考えさせられる回想録的な作品でもあります。

昨年ドラマ化もした作品なので、気になった方は是非手に取ってみてください！

(みんなでつくる学童STEMs そふえ)

[STEMz マンガ文庫]で検索！

イベント・サークル・ボランティア情報

心理カウンセラー養成講座 ～講座体験&説明会～

対人援助やカウンセリングに必要な基礎的なスキルを学べます。

◆日時：4月7日(木) 10:30～12:00

4月14日(木) 10:30～12:00

4月14日(木) 19:00～20:30

◆場所：ラポールひらかた

◆参加費：無料 ◆定員：15名

◆申込・問合せ先：NPO法人京阪総合カウンセリング

TEL 072-814-7140

メール jimu@npo-ksc.net

http://www.npo-ksc.net

【参加者募集】 放課後クラブ「チャレンジ・キッズ」

子どものことで、迷ったときに相談したり、悩みを打ち明けられる場があればいいなあ……。

そんな思いで集っています。支援者を交えて、気楽におしゃべり情報交換しませんか。

◆日時：4月15日(金) 10時30分～15時頃

(遅刻早退OK、出入り自由)

◆場所：ラポールひらかた 2階 集会室 ◆参加費：無料

◆問合せ：c-k@love-dugong.net または、

090-5893-5635 (16時以降 豊高)

下記ブログにて、随時情報を掲載しています。

http://ameblo.jp/challengekids81573/

('チャレンジ・キッズ'「アメブロ」で検索してください)

前回は「今昔物語集」を離れて、私が書いた大阪駅周辺のお話を再録しました。今回から又「今昔物語集」に帰りたいと思います。

「今昔物語集」だけでも文庫本にして四冊有り、その内一冊は中国の仏教に関するお話ですから、後の三冊が我が国のお話になります。と云いますのはこの三冊の中には「宇治拾遺物語」等からとられているお話しやその他の古典の物語集から取られているお話し等が多く有ります。そしてその中から小説や物語のネタとして多く利用されて居ます。

その中で最も有名なのが芥川龍之介です。彼は昔から「今昔物語集」から題材を多く使って書いているという事です。その中でもかの有名な漱石に認められた、彼の出世作「鼻」までが「今昔物語集」から取られているとは知りませんでした。「鼻」は『巻第二十八 本朝付世俗 池の尾の禅珍内供の鼻の語 第二十』より取られている事が判りました。

『羅生門』の羅生門の上でのお話しも「今昔物語集」から題材が取られていますが、彼の代表作「偷盗」もそうです。この「偷盗」は『巻二十九 “人に知られぬ女盗賊” 第三』を題材としております。その他「今昔物語集」から作品として書かれている物は多く、私が調べました所では、作品の作者としては先に書きました芥川龍之介を初めとして、司馬遼太郎、井上靖、室生犀星、吉川英治、幸田露伴、丹羽文雄、山本周五郎、海音寺潮五郎等有名な人が名前を連ねています。

女流作家としては杉本苑子、田辺聖子、等が随筆家として名を連ねています。その他に漫画家も居ますので、これほど多くの人が「今昔物語集」を読み自分の仕事に反映している事は此の本が昔の物語を面白く反映し、又多く書かれている事を物語っております。

上記以外の人でも「今昔物語集」を読み、自分の物として反映しております。芥川龍之介の話は有名ですので私も知っていましたが、これほど多くの有名な作家が「今昔物語集」を利用しているとは驚きでした。この古文を翻訳するのは大変ですし、それ程難しい文章では有りませんので皆さんも一度読まれては如何ですか。岩波

文庫本四冊にぎっしり詰まって書かれています。全三十一巻に書かれているお話は三百二十七話その内天竺の話は約三十三あります。

第十巻までは仏教のお話とは云え唐時代のお話ですが、十一巻以降は日本のお寺の建立のお話です。この中から一、二を書きましたがその他にもまだ色々と有ります。その他の事は頃合いを見て書いてみたいと思います。

第十二巻以降は我々の知らない、嘘か誠かも判らない様なお話しが続けられています。

その辺りからのお話しは有名な小説家に題材を提供しています、此れ等のお話しを脚色して物語を色々と作るのも「今昔物語集」の読み方では無いでしょうか。

この中には以前に私も書きました流泉、啄木の琵琶の名曲(巻二十四の二十三話)の話もあります。

本当に色々な物語が有り、その一つ一つを読んでいるだけで退屈している時間はありません。此が今まで読み継がれ、残っていた賜物では無いかと思います。

所詮は云い伝えですから読んでいて、科学的に可笑しい物もありますし、そんな事があるものか、と云うものもあります。それが又楽しいのです。

「今昔物語集」には当時の庶民の歴史が書かれていますので我々では理解の出来ない事もありますし、当時としては真実でしょうが、今となっては考えられない事も多くあります。それが「今昔物語集」であり、説話集と云うものだと思います。

要するに昔の日本の庶民の歴史を探ろうとすれば此れ等の説話集を読む事も一つの勉強だと思います。此れ等の説話集は当時の大衆の歴史を奏でていると思います。

今回も岩波文庫の「今昔物語集」四冊及び色々岩波文庫の出版物のお世話になりました事をお伝えいたします。

「おしまい」
小田川徳男

うたかた話(22)

今昔物語 (11)

LIPが選ぶ

今月の五行歌

路地裏の

陣取り合戦

紅白五分五分

散りゆく

源平咲き分けの梅

さなぎ

『春の風物詩』

というシールが貼られた

ゆうパック

もう 届くことのない

おばさんのくぎ煮

ちえこ

邪魔しないでよ

春霞ならいいけれど

花粉もPM2.5も

桜を愛でているのに

満開を喜んでいるのに

ふわり

五行歌（ごぎようか）とは……五行で書く短い詩。字数や季語などの制限はなく、自分のおもったこと、感じたことを、そのまま言葉にして書きます。枚方では、五行歌ひらかた歌会が、8月を除き月一度歌会を行っています。

（連絡先：akie.toyotaka@gmail.com

または 090-5893-5635・豊高）

No.13

なんちゃって農業女子(笑)

立春を過ぎたら農業的には色々と忙しくなります。と、言うのも「春」は夏野菜に向けて「種」を播く季節だからです。葉物野菜も、栽培適温が15℃～20℃の物は、このくらいの時期が、種まきには適しています。小松菜、ほうれん草、春菊、ルッコラなど……。

葉物野菜も、春と秋の二回栽培できるので、ぜひトライしてみてください。ただし、葉物野菜の中でも「アブラナ科」の野菜（小松菜や白菜やキャベツなど）は、アブラムシの被害にあいやすいので、他の科「アカザ科」のほうれん草や「キク科」の春菊などと混植するとアブラムシを回避でき丈夫に育ちます。

葉物野菜は比較的寒さに強いので、秋に種まきした物が冬を超えても食べられます。栽培したまま食べ残してしまった「葉野菜」に花が咲いても、それはそれで食べられます。今回の写真は「水菜とルッコラ」の花です。

水菜も「アブラナ科」の葉野菜ですので、いわゆる「菜の花

系」の黄色い花」ですが、ルッコラは同じ「アブラナ科」なのに花が少し違います。白くてかわいい花です。どちらも食べることが出来ます。ぜひ、ご自身で育てられた野菜たちの花も召し上がってみてください。写真のように、切り花として飾ってみることもおすすめいたします(笑)

いよいよ畑の作業も本番で、夏野菜に向けて

色々と種まきしたり育苗（苗を育てる事）したりと忙しくなります。が、今年の春は「暑すぎたり」「雨が降ったり」微妙に作業が阻まれていて、実はなかなか思うように作業が捗っておりません。現在、ナスとトマトの苗を育てている途中ですが、どうもうまく育っていないくて……。

一応、今から「とうもろこし」や「かぼちゃ」「きゅうり」などの育苗を始める予定です。来月号では、それらの野菜たちの苗の育ち具合などご報告できるとは思いますが……。ぜひ次号もお楽しみに(笑)

(文・写真 ヘそくん)



1 1年目の福島浜通り報告 ～原発事故被災地に行ってきました～ (3)

2021年12月にあいむひあ大阪（大阪市の教職員の有志が集まり、2013年から福島県被災地に関わり続けているグループ）の一人として福島県の浜通り（東部太平洋岸地域）の原子力災害の被災地を訪問しました。その訪問で見て感じたことについての報告の最終回です。今回は、災害の伝承を目的とした施設を訪問して気付いた「違和感」について書きたいと思います。

1日目、2日目と現地の人たちと交流し、今も帰還することのできない「帰還困難区域」の現地を見てきました。3日目には、全町避難の状態が続く双葉町の海岸に近い地区に建つ「東日本大震災・原子力災害伝承館」を見学しました。東日本大震災の被災自治体には、各自治体に1つずつその市町村が運営する「伝承施設」が作られています。双葉町には福島県が母体となる法人が運営する、いわば県営とも言える伝承施設がこの「伝承館」です。広大な土地に建てられたこの伝承施設は、他のどの地域の施設よりも立派な建物が建てられています。

中に入れば、最初に福島県出身の西田敏行がナレーションを務める動画の視聴から見学が始まります。福島県の浜通りに原子力発電所が建設された当時の「地域経済を支える新たな産業」として歓迎され「原子力明るい未来のエネルギー」という標語が生み出されるような、この地域の原発とのつながりなどが紹介される展示が続き、東日本大震災による被害がいかに甚大だったかの展示へとつながります。そして、原子力発電所の爆発事故です。原発事故の過酷さやその影響についての展示が続きます。

「長期化する原子力災害の影響」というコーナーが作られ「除染」「風評」「長期避難」「健康」の4つのテーマに関して、どのように状況が変化してきたのかを見ていきます」という説明がされ、それぞれの展示に移っていきます。ここまで来て、その展示内容に「？」となりました。『原子力発電所が爆発する大事故を起こした影響って「風評」や「除染」なんだろうか？』という違和感です。「双葉病院の重篤な症状の多くの患者が、避難のための移送中に死亡していたこと」や、「避難生活の過酷さということば」は書かれているけど、それぞれ小さなパネルに1枚の説明と、少しの資料がならぶだけです。具体的に何が起きたのかはその説明からだけでは伝わりません。「避難せずに福島にとどまった人の苦悩」の説明は、わずか3行だけ。「避難指示の出なかった地域からの自主的な避難者」についても10行程度の説明があるだけでした。

一方で、除染の説明や、廃炉の説明、現在の放射線量がいかに下がっているのかという説明（その一面は数値的に下がっているところだけをみせるという内容）には非常に多くの展示スペースが割かれているのです。

改めて考えてみると、原発事故による最大の被害は

何でしょうか。風評ではないはずです。教訓とすべきことは除染でもありません。自分の故郷を奪われ、慣れない新しい土地で仮住まいをし、新たな生業を見つけながら11年の日々を暮らしてきた人たち1人ひとりの暮らしです。また、放射能の不安を持ちながらも、さまざまな状況の中で福島から離れられなかった人たち、自分は元の家には戻ってきても、今まで一緒に暮らしてきた子どもや孫と離ればなれの生活を選ばざるを得なかった人、そして人生の展望を失い自ら命を絶った人など、10人いたら10通り、1万人いたら1万通りの苦しみや悔しさや悲しみがあったのに、そのことよりも「風評」「除染」をアピールしているのです。

福島県の原子力災害で「伝承」しなければならないことは何だろうかと思えば、「もう安全ですよ」のアピールではないはずです。一旦事故を起こしたら、取り返すことのできない惨事となるから、2度と事故が起きないようにするには何が必要かを検証し伝えることが「伝承」だと思います。だから、この11年の間に被災地で起きた、そして今も続く避難の現実に向き合うことこそが大事なのだということに気付きました。放射能被害の比較的小さかった地域では「安全」をアピールし、農作物が「風評」の影響なく売れるようになることが大事なかもしれません。しかし、浜通りには今も避難指示が解除されていない地域があり、そこには「帰って来れない人たち」の悔しい思いが今も残っていることをしっかり知る必要があると思うのです。

「故郷の桜を自分の家から見たい」そんな小さな楽しみすらも奪うのが原発事故です。故郷に住み続けても大丈夫かもしれないけど、もしかしたら何年後に、自分や自分の子どもが甲状腺ガンになるかもしれないと不安を持ちながら生活をしなければならないのが原発事故です。

報道が「帰還に一步前進しました」と喜びを伝える裏で、大多数が「いまさら解除されても帰れるわけがない」「仕事はない、友だちももういない、近所の家もない、家は朽ち始めているのに、どこに帰れというのか」と帰るに帰れない人たちがいること、「解除されたのだから、自宅に帰らないのは自己責任」とすべての補償を打ち切ろうとする加害者がいるということに多くの人は目を向けません。原子力災害で起きた事実を伝承するのが「伝承館」の役割のはずなのにそうになっていないことに、違和感と怒りを覚えます。

だから、自分にできることはあまりに小さいですが、少しでも「本当の今」をあくまでも自分の感じたこととして伝え続けていきたいと思っています。今回、私の報告を読んでいただいた皆様にも、少しでも「本当の被災地の今」を知ろうとしていただきたいと思います。

文／木村英生（大阪市立中学校教員）

わたしの闘病日記

「身体中で一番新しい関節に感謝」(8)

今回は退院後の生活についてです。

嬉しい退院ですが現実には覚悟が必要です。仕事の都合で約 10 日早く退院させてもらいましたが、45 日間上げ膳下げ膳、リハビリ以外はほぼベッド生活、どんなに病院内を歩いても全身の筋肉を使う範囲は限られています。

当然筋力の低下は避けられません。特に主婦は大変！！

家族は退院すれば入院前に戻っていると思うので、当事者の辛さに中々気づいてもらえません。入院中の生活が 180 度変化するのです。

リハビリのため散歩をするには、まず靴を履かなければなりません。靴を履く姿勢に注意しないと脱臼のリスクがありますので、注意しながら靴を履いてください。靴べらを使用する時は、手術した脚が内転しないように気を付けないといけません。(脱臼のリスク)

リハビリのため家の周辺を歩くのですが、前から自転車が来ると、とっさの時に避けられないので身体が固まってしまいます。

一般道路では端が少し下がっています。日頃気づかないのですが、この少しの傾斜が気になって、集中して歩かないと怖かったです。

頑張って歩くのは良いのですが、同じ距離を歩いて帰ることを考えましょう。さもないと「行きはよいよい、帰りは辛い」になってしまいます。帰りに辛くて「誰か助けて～」と叫びたいほどでした。等々集中しながら歩いているとドッと疲れてしまいます。

日々の生活は病院内以上に様々な動作をしています。最初は気を付けているものの徐々に慣れてしまい、ウツカリが出てしまいます。そんな頃に脱臼をしてしまいました。

手術して 1 年 5 か月目第一回目の脱臼は年老いた母と息子夫婦と出かけたときの事でした。ある施設のトイレに母を連れて行ったら、既に粗相をしていたので後始末をしていました。

寒い時期だったので長いスカートをはいており、スカートを両膝で挟み左側へ傾けしゃがんだところ脳天を叩きのめされた痛みと共に、その場にバタンと腰が落ちました。全身から汗が吹き出し目の前は真っ白、心臓はバクバク、声が出ない、何が起こったのか全く分からない。その時脳梗塞でも起こしたのかと思いました。

心拍が落ち着き、呼吸も楽になったので動こうと思って初めて自分が脱臼したことに気づきました。

恐ろしい体験は次回に……。

応援ありがとうございます♪

L I P 応援団

山本節子さん ポールムーンさん

匿名希望さん

知的障害者を普通高校へ 北河内連絡会

L I P 会計報告 (前号以降)

金額(円)	内容
14,001	前号から繰り越し
39,000	応援団寄付
▼504	郵送代
▼500	ロッカー代
▼3,900	1月号印刷代
48,097	計(次号へ繰り越し)

STOP WAR

■戦争反対。即時無条件停戦を求めます。停戦してからいくらかでも話し合えば良い。(w)

■4月2日(土)、枚方ビオルネ前の公園で、ポン菓子屋さんやります！

第8回さくらマルシェ 10時～15時

(主催：ひらかた子育て支援ネットワーク)

コロナでなかなか出勤機会がなかったので、楽しみです。ぜひお越しください。(w)

■L I Pは、市民が書き、市民が読む地域密着型情報紙です。あなたも紙面に登場してみませんか♪

【枚方自閉症児(者)親の会】

お母さん、一人で悩んでいませんか？ 障害があってもなくても、みんなと一緒に成長していきましょう。

おじいちゃん、おばあちゃんも歓迎です。

◆日時：4月20日(水) 10時～12時

5月12日(木) 10時～12時

◆場所：ラポールひらかた 4階共用ルーム

※連絡先 松崎 072-845-3014

さんなみ 072-868-9929



「枚方市民にだけ」
読んでほしい情報サイト

枚方つーしん

検索

イラスト 表紙：平井由恵